

今夏、私の出来事から。お盆に帰省（岩手県遠野市）したときの話です。JR釜石線が運休のため、新花巻駅からタクシーに乗って実家へ（約40分）。運転手さんが花巻東高校出身の大リーガー「大谷翔平」について多くを話してくれました。

大谷君の高校時代から現在までのストーリーをひとしきり話した後、「大谷君のお母さん、パートをしているんですよ」と。「ご両親、一切マスコミに出ませんよね。それもすごいけど、大谷君から一切の援助を断っているんだそうですよ」と続けました。察するに、息子の活躍は息子自身の努力の結果であり、親が四の五の言うことではない。まして、親が子の得た収入を当てにすることは恥ずべきだというご両親の強い想いがあるのだろうと。素晴らしいご両親だなあと溜息が漏れるばかりでした。

（右の写真は、報告会・壮行式での様子）



「好きこそ物の上手なれ」

先日26日（月）が始業式、いよいよ2学期が始まりました。この日は朝から気温が上がり、日中の気温が36度超え。熱い夏がいつまで続くのでしょうか。10月には高校2年生・中学3年生の研修旅行、11月には文化祭、12月にはクラスマッチなどの行事があります。充実した2学期を過ごして欲しいと願っています。

始業式を終え、インターハイ（佐賀県）に出場した水泳部（女子1名）、第78回国民スポーツ大会（佐賀県）に出場した綱引き（女子3名）の報告会がありました。また、これから同じ第78回国民スポーツ大会（佐賀県）に出場する器械体操（女子1名）となぎなた（女子1名）の壮行式が行われました。思うような結果が出なかったけども頑張った生徒、今後いい準備を心掛けて、納得のパフォーマンスを発揮できることを期待したい生徒、共に自分が得意とし、普段の学習に加えて情熱を掛けて取り組んでいるのです。

さて、「好きこそ物の上手なれ」という言葉があります。これは、好きならば上手でなくてはならないとか、好きならば上手であるに違いないなどという意味ではないことはご存じかと思います。「こそ」（係助詞）～「なれ」（助動詞・断定「なり」の已然形）の「係り結び」であり、強調を表現しています。したがって、「好きであることが上達の一步である」あるいは「好きなことには熱心に取り組むので、自ずと工夫もし、上達するものである」というぐらいの意味になるのでしょうか。クラブ活動に取り組み、予選を勝ち抜いて全国大会などに出場するというチャンスを掴むことも、このことの結果なのだと思います。好きじゃないと始まらない、続けられないということを良く聞きます。当たり前のことではありますが、「好き」ということが何よりのモチベーションであることは間違いのないことなのです。

ある物事を「好き」になる契機は、人によってそれぞれ違いがあります。例えば、「やってみない？」とある人から勧められたので好きになったということもあるでしょう。誘惑とは意味合いが異なりますが、勧められ方によっては心を持っていかれて好きになり、「はじめました！」ということになるかもしれません。趣味的なことはこれかもしれません。また、あることを習慣で取り組んでいたら、いつの間にか「はまってしまって…」なんていうことがあります。体に良いということでも始めたウォーキング。天気が悪くても続けている自分に気づくことがあったりして。

しかし、こうしたこと以上にあることが、さしたる理由があるわけではないけども、誰が何と言おうと「決めた」ということがすべて。ゾーンに入るが如く、脇目も振らずに夢中になって取り組んでいることがあるのではないのでしょうか。もはや、その人の感性によって生じた結果でしょう。その道を目指したり、窮めたりすることに繋がっていきます。私の場合、サッカーに出合ったこと、教師という職業に就いたことが、譲れない、ディープな「好き」ということになります。

人は誰もこうした経験を通じてあることを「好き」になり、傾注していきます。前述の「なぎなた」の生徒、高校2年生の羽山莉花さんに始めたきっかけを聞いてみました。「中2の頃に袴姿に憧れたんですが、偶然、地域でなぎなたに触れる機会あり、これだと思い始めました。部活としての入部は高校からですが、簡単ではない競技で、練習量が求められます。今、とにかく夢中になっています」と話してくれました。

「好き」が原動力となって自分のカタチをいつの間にか形成していきます。つまり、「好き」ということが多ければ多いほど、人としての幅のようなものを広げていくのかもしれません。